

目指す学校像	「認めて育てる」教育を推進する学校：児童の努力しているところを見つけ、児童の励みになるように認めて育てる指導を心がけるとともに、児童が自ら学び、行動する意欲を高め、児童の自己肯定感を育む教育を実践する。
--------	---

重点目標	1 学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業（学習指導）の実践 2 安心・安全で心豊かな学びを保障する教育環境の充実 3 家庭・地域・関係諸機関との連携による教育の推進（コミュニティ・スクール） 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい（Well-Being）学校をつくる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価			学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	年月日	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、県平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ理科、算数でやや高く、国語、社会、G・Sでやや低い。 ○日頃の学習の様子から、意見交換や調べ学習等でタブレット型コンピュータを積極的に活用して学習に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、習熟の二極化と、根拠や理由など自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多い。 ○学習内容の理解度と比べて学習への関心が高まっておらず、児童が学習の意義を実感できるようにすることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・主体的に学ぶ楽しさを実感できる「桜木小版 STEAMS TIME」の策定 	①全国学力・学習状況調査について自己採点して結果を振り返り、児童が学習状況を把握する。スタディサプリ等の取組状況を基に学習相談を実施し、児童が苦手克服に向けて目標をもって学習できるようにする。 ②ICTを活用し、自分の考えを表現する力を高めたり、児童同士で考えを共有して表現したりする授業を進める。(国語、社会、G・Sを中心に)	①児童が自己採点の結果をもとに自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動(スタディサプリ等の取組状況)したか。市学習状況調査の学習に関する項目において、80%以上の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価項目「授業内容・発表・質問」の児童の達成率や市学習状況調査の学習に関する肯定的な回答率の割合が共に85%以上となったか。						
2	〈現状〉 ○各種調査で、設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は高く、設問「自分にはよいところがある」では低い。 ○手洗い・換気・手指消毒・黙食を徹底し、行事における感染症対策も徹底した。各教室に二酸化炭素濃度チェッカーとサーキュレーターを配置してクラスター感染防止対策をしている。 〈課題〉 ○毎日の保健室の利用状況は平均10人程度だけがと病気の割合が6:4(けが:病気)となっていて決して低い値とは言えない現状である。 ○児童の自己管理能力について課題を感じている教職員も多く、「健康について関心はあるが、けがや病気を未然に防ぐ」という点について児童の自覚や、指導の在り方等に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を育む、児童一人ひとりの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・いつも清潔、安心安全な居場所づくりと児童の自己管理能力を育む各種取組の充実 	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの心身の状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価の児童アンケートや市学習状況調査「生徒指導・自尊意識」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ②学校自己評価の教員アンケート及び保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。						
3	〈現状〉 ○昨年度にコミュニティスクール準備委員会を立ち上げて目指す児童像について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを確認した。 〈課題〉 ○共有した目指す児童像を、家庭・地域等に広め、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、地域総がかりで挨拶等を通して顔の見える関係づくりを推進することで、地域全体の望ましい人間関係づくりや地域教育力の向上を目指し、児童を守る防犯・防災体制も整えていけるようにする。 ○120周年記念行事もあることから、学校・家庭・地域全体で共有し、学校と地域、関係する諸団体との結びつきを確かなものにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童像を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・トラブル等における適切な対応と地域総がかりによる挨拶を通じた地域教育力の向上 	①本校HP内に学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを年3回作成・周知し、目指す児童像等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②地域懇談や育成会等に積極的に参加したり、地域の方を招いた給食試食会を実施したりして、学校の情報提供に努めると共に、要望等にも耳を傾ける。	①学校自己評価の保護者アンケートで、「コミュニティ・スクールに関する情報が適切に周知されている」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価の保護者アンケートで、「保護者や地域の方々に学校を知ってもらう努力をしている」と回答する割合が80%以上となったか。						
4	〈現状〉 ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○教科担任制(第6学年)により、担当教科の深い教材研究を行うことができていく。 〈課題〉 ○授業の中で効果的にICTを活用することについて、教職員間で取組の差がある。また、誰もが学び続けることのできる職場環境づくりが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる研修の充実 	①年間を通して学期に1回以上、ICTの活用方法について、全ての教員が学ぶ研修を実施する。 ②教科担任制(高学年ブロック)により複数教員で児童の様子を多面的にとらえるとともに、各教科の専門性を高めることで児童理解と授業改善を行う。 ③授業改善に向けて教員が目標を設定してICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びに関する実践に取り組む。(1人1授業の実施)	①全ての教員が「個別最適な学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②学校自己評価の児童アンケート(高学年)で、「授業の内容が、よくわかる」と回答する割合が80%以上となったか。 ③全ての教員が授業改善を行い、学校自己評価の教員アンケート「研修」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。						

学校運営協議会による評価
 実施日 令和 年 月 日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等